

テーマ：自然

品川区立東五反田保育園（4歳児）

【設定理由】 都会の真ん中にある保育園の小さな園庭の中で、虫や草花に親しみ、園で飼っているメダカやグッピーにも興味をもっている。また、気になったことを自分なりに考え、友達や保育者に話したり、図鑑で見たりする姿もあることから、子どもたちの興味や関心をより深めることができるようにテーマを設定した

【事例1】

- ねらい : 探索活動を楽しんだり、自然に親しんだりする
- 活動内容 : 高輪森の公園に行く
- 用意した環境 : 自然や自然物が多く、探索ができる場所を選んで散歩に行く



【子どもたちの様子】

木のうろを見つけ、中に水が入っていることに気が付き、じっと見つめたり、持っていた枝で中をつつき始めた。「この水どこから来たのかな？」と、保育者が尋ねると「誰かが入れたんだよ」「ここからお水飲んでるんだよ」と思ったことを話し始める。「雨かな…」とつぶやくように言葉にする子がいた

○保育者の振り返りと気づき（観察者の気づき）

- ・自然の中で見つけたものや気になったものを友達や保育者に知らせたり、自分なりに考えたりするが見られた。うろに入っている水に気が付き、つついた後の「ここからお水飲んでるんだよ」という言葉から、子どもならではの発想で面白さを感じた。一人一人様々な視点から気づきがあり、保育者自身も新たな発見や子どもたちがどのような視点で物事を捉えているのかなど意外な一面を知ることができた
- ・自然や自然物が多く、自ら積極的に環境にかかわっていた。体を動かしたり、虫を観たり、ごっこ遊びをしたりとそれぞれが自然を感じながら遊ぶことができていた



【事例2】

○ねらい : 木育ワークショップを通して、木に触れたり匂いを感じたりして木に親しむ
木片を見たり製作をしたりして、見立てたり創造して遊ぶことを楽しむ

○活動内容 : 木育ワークショップ（カンナくずプール、木片製作）に参加する

○用意した環境 : 木片、カンナくず、マキンバ、グルーガン、穴あけドリル、ポスカ、紙やすり、木のベンチ、麻紐 など



【子どもたちの様子】

- カンナくずのプールに入った瞬間に「いい匂いがする」と笑顔を見せ、横になる子がいる。「ひのきの匂いだ」と声をあげたり、友達に「おいで」と誘ったりしていた
- さめを作ろうと講師にグルーガンで木片をつけてもらう。出来上がった形を見て「ドライバーだ！」と声をあげると「ドライバーならここに付ける？」と木片の先にビスをつけてもらい、嬉しそうに見つめていた
- 木片に絵の具で色を塗っていた子が「ここは塗りにくい」と、のこぎりで切った断面は色が塗りにくいことに気付き、何度も塗ったり、筆で叩くように塗ったり、絵の具をべっとりとつけたりする

○保育者の振り返りと気づき（観察者の気づき）

- カンナくずのプールに入り、触ったり横になったりすることで、匂いや感触を体全体で感じていた。友達に知らせたり、誘ったりする姿もあり、一緒に遊んだり、感じたことを言葉にしたりし、一緒に楽しもうとする子どものわくわくした気持ちや意欲を感じた
- 作ろうと思ったものが変わっていった子ども特有の面白さや発想の面白さを感じた
- 木の特徴に気が付き、それぞれの子どもたちが色をどう塗るかを考え、工夫していた。友達と一緒に試すことで色々な方法を知り、遊びの中で気が付いたり学んだりしていた



【事例3】

- ねらい : 探索活動を楽しんだり、自然に親しんだりする
- 活動内容 : 林試の森公園に行く
- 用意した環境 : 自然や自然物が多く、探索ができる場所を選んで散歩に行く・お散歩バック



【子どもたちの様子】

- ドングリを拾うと「違う色のどんぐりがある」「これとこれは同じ形なのに色が違う」などと色の違いに気づく姿が多く見られた
- 探索が好きな子どもたちなので見つけてはみんなと共有していた。個で終わらず集団で、子どもたち同士で会話をしながら楽しんでいた
- 4歳児として気の合う友達と探索を楽しんでいた。珍しいものを一緒に見つけ同じものを収穫することを楽しんでいた
- 東屋で天井をみて「亀の甲羅みたいだ」と言っていた。収穫物は下にあるのでついつい下を見てしまうが上を見あげて気づく姿も見られた
- 見つけたものをじっと見つめながら厳選した物を散歩バックに入れていた



○保育者の振り返りと気づき（観察者の気づき）

- 前回公園へ行ってから期間が空いてしまったため、収穫物を拾えるポイントがわからなくなってしまった。継続して楽しんでいると、木々の変化などより細かく気づけるようになるのではないかと
- 「タコの吸盤みたい」「コーヒーの豆は真ん中がわけてるよ」など経験や知識などを基に、自然の中で感じたことを言葉で表現するようになってきている
- 「亀に木の実をあげよう」と言って拾っていたが「木の実を食べないんじゃない？」という保育者に対し「1回試してみようよ」という姿があった。日常でも試している様子が伺える。また、「どうなっているのだろう？」と不思議・知りたいという思いからどんぐりを割り「どんぐりの中にどんぐりが入ってる！ピーナッツみたい」と自分で確かめる姿がみられた。遊びの中で色々と試すことが大切だと感じた。図鑑なども使い、自分で調べることで知識を増やしていけると良い
- 製作の装飾に利用するなど、収穫物を活用することを考えてしまうが、拾って使うのがゴールではなくて良い。どんぐりをみつけて色や形の違いに気づく、その視点を大切にしていきたい



【事例 4】

- ねらい : シャボン玉ショーに参加し、不思議さや面白さを感じる
- 活動内容 : シャボン玉ショーに参加する
- 用意した環境 : シャボン玉ショーの準備をする・ゴザ、マット、周囲を覆う養生シートを敷く



【子どもたちの様子】

- シャボン玉が出来上がる様子を見て「あー！」っと感嘆の声をあげたり、嬉しそうに手を伸ばしたりしていた
- 風に揺れるシャボン玉を追いかけて、手を伸ばし、笑顔で叩いて割っている。何度か割った後、シャボン液の感触が気になったようで、じっと手のひらを見つめていた
- 肩について割れたシャボン玉が白っぽく残ることに気が付き、手で払うように触っていた

○保育者の振り返りと気づき（観察者の気づき）

- ペットボトルやハサミの持ち手でシャボン玉ができることを面白がり、興味をもって見たり、友達と一緒に楽しんだりする姿があった。子どもたちの身の回りにあるものであったことから、より興味が深まっているのではないかと感じた
- シャボン玉が扇風機の風で遠くに飛んでいく様子を面白がっていた。また、大きなシャボン玉の中に入った時には、揺れるシャボン玉の様子を嬉しそうに見つめていた。シャボン玉ショーを通じて、空気の流れや風を感じることもできた。子どものわくわくした表情や不思議そうな表情から、シャボン玉ショーを十分に楽しんでいた